

## サイエンス映像学会学会誌 執筆要領

1. 原稿は、原則として和文とする（例外的に、英文での投稿を可とする場合もある）。
2. 原稿は、次の2種を提出すること。
  - 1) 文字の修飾やレイアウトなどがわかるもの（pdf ファイル）
  - 2) プレーン・テキストの電子ファイル
3. 図表や写真は、良好な品質のものを、電子ファイルで提出すること。図表や写真を挿入する場所は、上記の1)を見ればわかるようにしておくこと。
4. 図表や写真の説明文を上記2)の形で提出するときは、本文の中に混ぜ込まず、本文の最後に別記すること。
5. 原稿の分量は、論文などは16000字程度以内、報告や紹介などは8000～16000字程度以内とする。
6. 論文には、200語以内の英文要旨と、5個以内の英語キーワードをつける。報告や紹介などには、5個以内の英語キーワードをつける（200語以内の英文要旨は、つけてもつけなくてもよい）。
7. 原稿を提出する際には、指定の投稿申請用紙に必要事項を記入し、添付すること。論文の場合にはさらに英文要旨も記載すること。
8. 句読点は、全角の「。」と「、」とする。
9. 本文の様式は以下のようにする。
  - A. 章節の表示形式は次の例にしたがう。  
章の表示：1. 問題の所在、2. 分析結果、など  
節の表示：1.1 先行研究、1.2 研究の枠組み、など
  - B. 外国人名や外国地名はカタカナで記し、よく知られたもののほかは、初出の箇所にフルネームの原語つづりを（ ）内に添えること。
  - C. 原則として西暦を用いること。
  - D. 単行本、雑誌の題名は、『 』のなかに入れること。
  - E. 論文の題名は、「 」のなかに入れること。

- F. アルファベット、算用数字、記号はすべて半角にすること。
- G. 注は、通し番号 1) 2) … を本文該当箇所の右肩に付し、注の本体は本文の後に一括して記すこと。

10. 注と文献は、分けて記載すること。

11. 引用文献の提示方法は、原則として次の形式に従うこと（文献はすべて本文中で示し、文献を示すための注は用いない）。

[本文]

サイエンス映像の重要性は、次の点にあると指摘されている（文部科学省 2004; Johnson and Rees 1990）。

しかし、藤田（2005）も強調しているように 1)、…

[注]

1) ただし、…の点に限れば、ケプラー他（2003）にも同様の指摘がある。

12. 文献は、原則としてアルファベット順に和文欧文の区別なく並べる。

[例]

藤田太郎 2005: 「サイエンス映像」『現代』2009年3月号、33-58.

ケプラー他 2003: 渡辺純一他訳『サイエンス映像』丸善; Kepler, A. N. et al., Science Visualization, Kluwer Academic Publishing, 2003.

Johnson G. E. and Rees M. S. 1990: "Science and Society: For New Generation", Nature, 111 (21 July 1990), 988-99.

文部科学省 2004: 『平成 16 年版 科学技術白書: これからの科学技術と社会』 国立印刷局.

Weins, L. 1977: "Science and Human", Science, 39, 398-509.

13. 同一著者の同一年の文献については、藤田太郎 2006a、藤田太郎 2006b のように、a、b、c … を用いて区別する。

この執筆要領は、改定することがあります。執筆にあたっては、最新の執筆要領を確認してください。

2009年12月26日制定